

通級指導教室 自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害, LD・ADHD 等通級指導教室 (あけぼの教室)

3人 (5年男子2人, 女子1人)

指導者 T1 中水一元 T2 清藤大嗣

1 活動名 テーマに合わせて伝え合おう

2 活動の目標

- 友達と一緒にクイズやゲームをする中で、他者と関わり合いながら学習することのよさを味わうことができる。
- テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイント (「よく聞いて」, 「交互に」, 「一つずつ」) に気を付けて、友達とのコミュニケーションを図ることができる。
- 自分ができるようになったことに気付いたり、友達のよさや頑張りを認めたりすることができる。

3 活動について

(1) 活動設定の理由

対象となる子供3人は、在籍学級や通級指導教室等での様々な学習や経験を重ね、安定した情緒の下で集団生活を送ることができるようになってきている。また、通級指導教室の様々な活動に対する意欲も高く、楽しみながら学習に取り組んでいる。しかし、「学習の進め方が分からない。」「友達の手助けがないと学習が進められない。」などという状況になったとき、自分から周りの人に頼ったり、助けを求めたりすることが難しい様子が見られる。また、会話を進める際、聞き手の気持ちや関心に気を付けて話すことが苦手で、自分ばかりが一方向的に話してしまったり、急に話題を変えてしまったりすることもある。さらに、自分の考えていることや思っていることが相手に伝わらず、他者とのやり取りに対して消極的になってしまう姿も見られる。

そこで、本活動では、友達に伝えたり尋ねたりする場面のある様々なクイズやゲームに取り組むことで、他者と関わり合いながら課題を解決していく楽しさを味わうことができるようにする。また、テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイント (「よく聞いて」, 「交互に」, 「一つずつ」) に気を付けながら学習することで、友達とコミュニケーションを図る上で必要となる基礎的な能力を身に付けることができるようにする。さらには、自分ができるようになったことに気付いたり、友達のよさや頑張りを認め合ったりすることで、他者とのやり取りへの積極性を育むことができるようにする。

指導に当たっては、まず、教師の役割演技 (VTR) を見ることで、テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイント (「よく聞いて」, 「交互に」, 「一つずつ」) に気付くことができるようにする。次に、これらのポイントを意識して、友達に伝えたり尋ねたりする必要があるクイズやゲームを行うことで、子供たちが学習を楽しみながら、三つの大切なポイントを身に付けていくことができるようにする。なお、クイズやゲームについては、双方のやり取りから三者でのやり取りが必要となるものへと、段階的にステップアップすることで、「友達の話をよく聞いて答えることができた。」「三人でテーマに合わせて話を続けることができた。」などという成功体験を重ねていくことができるようにする。さらに、学習の様子を録画したVTRを視聴したり、自己評価カードで振り返りを行ったりすることで、自分の成長を実感したり、互いの頑張りを認め合ったりすることができるようにする。なお、1単位時間の学習には、「聞く」活動、「話す」活動、「見る」活動、「動く」活動を意図的・計画的に位置付けることで、他者との「関わり合い」を充実させていくための基礎的・基本的なソーシャルスキルを身に付けていくことができるようにする。

このような学習を通して、子供たちは他者と関わり合いながら学ぶ楽しさや喜びを味わうことができると考える。また、自他の理解を深め、相手の働き掛けを受け止めたり、自分の思いや考えを伝えたりすることができるようになってくるのではないかと考える。このことは、子供たちの自己肯定感を高めると共に、周囲の人ともっとコミュニケーションを図っていこうとする意欲を高め、自身の生活を更に豊かにしていくことにつながるのではないかと考える。

(2) 子供の実態

		A児	B児	C児
教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち着いて自分の思いや考えをまとめ、順序立てて伝えることができるようになること ・ 場や状況に応じて気持ちを切り替え、適切な行動ができるようになること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の場で、自分の思いや考えを伝えることができるようになること ・ 友達と一緒に様々な学習に積極的に取り組むことができるようになること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題に沿って話を続けたり、会話の移り変わりを意識したりできるようになること ・ 場や状況に応じて気持ちを切り替え、適切な行動ができるようになること
	心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思ったとおりにいかないことがあると、気持ちが落ち着かなかったり、友達を困らせたりすることがある。しかし、少しずつ自分の気持ちを整理し、相手に言葉で伝えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて経験することに対しては、不安な気持ちが強くなり、消極的になってしまふことがある。しかし、学習の流れや方法を理解すると、前向きに取り組むことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日によって、活動に対する気持ちの変化が大きく、場にそぐわない言動をとってしまうことがある。しかし、名前を呼んで言葉を掛けると、周囲の状況に意識を向けることができるようになってきた。
人間関係の形成	他者との関わり の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から積極的に話し掛けることができるが、思いや考えを上手く言葉で伝えられないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親しい友達や教師とは楽しく会話をすることができるが、慣れるまでには時間が掛かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちが高ぶると、相手の主張や意見を聞き入れることができず、気持ちを切り替えることが難しい。
	集団への参加 の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味がある学習に関しては、意欲的に参加することができるが、ゲーム等では勝手にルールを決めることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安や恥ずかしい気持ちが大きくなると、消極的になり、学習に参加できなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順や決まりを理解して活動することができるが、自分のペースで勝手に物事を進めてしまうことがある。
コミュニケーション	言語の受容と 表出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の意図を理解したり自分の思いや考えを分かりやすく伝えたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞かれたことや意見を求められたことについて、順序立て、分かりやすく伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができるが、相手の話に注意を向けられないことがある。
	状況に応じた コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場や状況に応じて声の大きさを調整できないことがある。また、話に夢中になりすぎると、相手の状況を把握できずに一方的に話すことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場や状況の把握はできている様子だが、自分の思いや考えをどのように表現すればよいのか分からずに、友達との会話が続かないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人との会話を楽しんでいるが、話題と関係のない話を始めたり、自分が興味のあることを一方的に話したりしてしまふことがある。

4 指導に当たって

(1) 「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

ア 子供の实態に応じた「関わり合い」の設定

友達に尋ねたり、友達から尋ねられたことに答えたりする必要のある学習を設定することで、友達への依頼・要求の仕方や教示・援助の仕方について、実践をとおして学ぶことができるようにする。

イ 子供同士の「関わり合い」を充実させるための手立て

学習課題の設定については、双方のやり取りから三者でのやり取りが必要となるものへと段階的にステップアップすることで、少しずつ成功体験を重ねていくことができるようにする。

(2) 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容2】

ア 学びの自覚を促す手立て

「活動する」過程や「振り返る」過程では、学習の様子を録画したVTRを視聴し、客観的に自分自身の姿を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりすることで、自分ができるようになったことや課題について気付くことができるようにする。

イ 次につなぐ手立て

通級指導教室での学習の様子について、在籍校担任や保護者に連絡帳等で知らせることで、子供の成長や課題について共通理解し、通級指導教室で学んだことを、在籍学級や日常生活での実践につなぐことができるようにする。

5 指導計画(総時数7時間)

次	時間	指導のねらいと主な活動内容	主な「関わり合い」の場面
一次	1	<p>「テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントは？」</p> <p>【指導のねらい】 テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントに気付くことができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> VTRを見て、テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントについて考える。 テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントを確認する。 「よく聞いて」、「交互に」、「一つずつ」 大切なポイントを意識して、簡単なゲームに挑戦する。 本時を振り返ると共に、本活動への見通しをもつ。 	<p>【第一次】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントについて、VTRを見た後に話し合う。(協力) <p>話をよく聞いていなかったから、違う話を始めていたよ。</p> <p>そうだね。あと、自分ばかりしゃべっていたよ。</p>
二次	2	<p>「テーマに合わせて伝え合おう1」</p> <p>第1時 「お助けクイズⅠ」 第2時 「お助けクイズⅡ」</p> <p>【指導のねらい】 大切なポイントに気を付けて、友達に尋ねたり、友達から尋ねられたことに答えたりすることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 大切なポイントを確認する。 「今日頑張ること」を決める。 学習の進め方やクイズのルールを確認する。 クイズをする。 振り返りをする。 	<p>【第二次～第三次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を得るために、友達に尋ねたり、友達に知っている情報を伝えたりしながら、クイズやゲームを進めていく。 (分業・調整) (依頼・要求) (教示・援助) <p>僕が最初に挑戦してもいいかな。</p> <p>〇〇さん、その食べ物の色は何色ですか。</p> <p>その食べ物の色は赤色です。</p>
三次	2 (本時2/2)	<p>「テーマに合わせて伝え合おう2」</p> <p>第1時 「言葉でパズルⅠ」 第2時 「言葉でパズルⅡ」</p> <p>【指導のねらい】 大切なポイントに気を付けて、友達に必要な情報を伝えたり、分からないことを尋ねたりすることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 大切なポイントを確認する。 「今日頑張ること」を決める。 学習の進め方やゲームのルールを確認する。 ゲームをする。 振り返りをする。 	<p>【第四次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員で情報を交互に伝え合いながら、答えを考える。(協力)(交代) <p>私の絵には鳥が三羽飛んでいるけど、みんなはどうか。</p> <p>僕の絵は、同じように三羽です。</p> <p>僕の絵には、二羽しか飛んでいないよ。</p>
四次	2	<p>「テーマに合わせて伝え合おう3」</p> <p>第1時 「みんなで間違い探しⅠ」 第2時 「みんなで間違い探しⅡ」</p> <p>【指導のねらい】 大切なポイントに気を付けて、自分の知っている情報を友達と伝え合ったり、知りたい情報を尋ね合ったりすることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 大切なポイントを確認する。 「今日頑張ること」を決める。 学習の進め方やゲームのルールを確認する。 ゲームをする。 振り返りをする。 	<p>【第四次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員で情報を交互に伝え合いながら、答えを考える。(協力)(交代) <p>私の絵には鳥が三羽飛んでいるけど、みんなはどうか。</p> <p>僕の絵は、同じように三羽です。</p> <p>僕の絵には、二羽しか飛んでいないよ。</p>

6 本 時(5/7)

(1) 目 標

大切なポイントに気を付けて、友達に必要な情報を伝えたり、分からないことを尋ねたりすることができる。

個人 目 標	A児	自分の伝えたいことを、一つずつ順序立てて友達に分かりやすく伝えることができる。
	B児	友達の指示の内容で分からないことがあったとき、自分から尋ねることができる。
	C児	友達の話をよく聞いて、テーマに合わせて会話を進めることができる。

(2) 展 開

□ 教師の言葉掛け □ 予想される子供の反応 聞く、話す、見る、動く「関わり合い」を充実させるための活動 ◆評価に関すること ☆ICT活用上の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応	子供に応じた具体的な手立て		
		A 児	B 児	C 児
つかむ・見通す (8)	<p>1 前時までの学習について振り返る。【聞く】</p> <p>2 テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイント(「よく聞いて」、「交互に」、「一つずつ」)を確認する。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> パズルを完成させるために、言葉で伝えたり、分からないことを尋ねたりしよう。 </div> <p>(1) めあてを声に出して読む。</p> <p>(2) 個人のめあて(「今日頑張ること」)を決める。</p>	<p>○ 「活動マップ」を提示することで、前時までの学習を振り返ると共に、本時の学習への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「テーマに合わせて伝え合うときの大切なポイントは、何だったかな。」と問い掛け、絵カードを提示することで、「よく聞いて」、「交互に」、「一つずつ」というポイントを想起することができるようにする。</p> <p>○ 「できたかなカード」(自己・相互評価カード)を活用することで、前時の学習の成果を振り返りながら本時の個人のめあて(「今日頑張ること」)を立てることができるようにする。</p> <p>○ 大切なポイントと個人のめあてを黒板に明示することで、常に大切なポイントやめあてを意識して学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ 難易度の異なる3パターンの課題を準備し、子供たちが話し合っって選択できるようにすることで、意欲的に学習に参加することができるようにする。</p>		
活動する (27)	<p>4 学習の流れを確認する。【聞く】</p> <p>5 ゲーム(「言葉でパズルⅡ」)をする。 【「関わり合い」(教示・援助、依頼・要求)】</p> <p>(1) ゲームの進め方やルールを確認する。</p> <p>(2) ゲーム1をする。【動く】</p> <p>(3) VTRを見て話し合う。【見る】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> VTRを見て、友達のよかったところや、もっとこうした方がよいと思うところを見付けよう。 </div>	<p>○ 分かりやすく伝えるための話型を提示することで、伝える内容をまとめ、順序よく伝えることができるようにする。</p> <p>○ 「分かりましたか。」「いいですか。」と確認し合うようにすることで、分からないことについて尋ねる時間を確保できるようにする。</p> <p>○ ゲームのルールを確認し合うことで、不必要な話をせず、テーマに合った会話を意識することができるようにする。</p>		
振り返る (10)	<p>(4) ゲーム2をする。【動く】</p> <p>6 本時を振り返り、学習の感想や友達のよかったところを発表する。【話す】</p> <p>7 次時の学習について知る。【聞く】</p>	<p>○ 学習を進める際、子供のよさや頑張りを認め、称賛することで、子供が自信をもって学習を進めていくことができるようにする。</p> <p>☆ 学習の様子を録画したVTRを見ることで、自分自身の姿を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりすることができるようにする。</p> <p>◆ 「できたかなカード」(自己・相互評価カード)を使って個人のめあてを達成できたかどうかを振り返ることで、自分の成長や課題について気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「活動マップ」を提示し、これまでの学習の積み重ねや次時の学習内容を確認することで、次時の学習への見通しや意欲をもつことができるようにする。</p>		

あけぼの教室「テーマに合わせて伝え合おう」本時（5／7）における「関わり合い」想定シート

「関わり合い」の目的

- パズルを完成させるため。
- 互いのよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりするため。

「関わり合い」の方法

形態	全体	思考を可視化する手立て	パズル（色板）、ボード、VTR等
----	----	-------------	------------------

「関わり合い」で目指す子供の姿

A 児	自分が伝えたいことを、分かりやすく友達に伝えることができる。
B 児	ゲームを進めるときに分からないことがあったら、友達に尋ねることができる。
C 児	友達の話を聞いたり尋ねたりしながら、パズルを作り上げることができる。

「関わり合い」を充実させるための四つの活動と本時において身に付けさせたいスキル

聞く	教師の説明や友達のアドバイスを静かに聞く。
話す	友達に聞こえる声の大きさで、必要な情報を伝えたり、分からないことを尋ねたりする。
見る	友達によさを伝えたりアドバイスをしたりするために、集中してVTRを視聴する。
動く	友達の指示に従って、パズルを完成させる。

「関わり合い」の想定

教師の手立て

5-(2) ゲーム1をする。【「関わり合い」(教示・援助)】



言葉で情報を伝えたり、分からないことを尋ねたりしながら、パズルを完成させましょう。



まず、青色の正方形を真ん中に置いてください。次に黄色の三角形を置きます。
※ 情報を相手に伝える。(A児)

〇〇さん、黄色の三角形はどこに置いたらいいですか。

※ みんなと一緒に活動する。(C児)

私も、黄色の三角形をどこに置けばよいか分からなかったの、もう一度教えてください。

※ 分からないことを友達に尋ねる。(B児)



黄色の三角形は、青色の正方形の上に合わせて置きます。家の屋根のような形になります。これで分かりましたか。

※ 相手に分かりやすく伝える。(A児)

5-(3) VTRを見て話し合う。【「関わり合い」(称賛、教示・援助)】



VTRを見て、友達のよかったところや、もっとこうの方がよいと思うところを見付けよう。

〇〇さんに質問をした後、分かりやすく教えてくださいました。

※ 友達の頑張りを言葉で伝える。



二人がぼくの話の静かに聞いてくれたので、とても嬉しかったです。

※ 友達の頑張りを言葉で伝える。

「いいですか。」と尋ねると、みんなに伝わっているかどうか分かります。

※ 友達にアドバイスをする。

○ 分かりやすく伝えるための話型を提示することで、伝える内容をまとめ、順序よく伝えることができるようにする。(A児)

○ 「分かりましたか。」「いいですか。」と確認し合うようにすることで、分からないことを尋ねる時間を確保できるようにする。(B児)

○ ゲームのルールを確認し合うことで、不必要な話をせず、テーマに合った会話を意識することができるようにする。(C児)

○ 視点を明確にしてVTRを視聴することで、友達によさに気付いたり、アドバイスをしたりすることができるようにする。(全員)

